

社会福祉法人さくらの家福祉農園

事業報告書

2023 年度

目 次

目次	p1
I 法人の動向	
1 法人の概況	p2
2 土地及び建物	p2
3 法人組織	p3
II 指定就労継続支援 B 型事業所・指定生活介護事業所「さくらの家福祉農園」の動向	
1 事業所の行事	p8
2 利用者数の状況	p8
3 就労継続支援 B 型事業所利用者工賃支払状況	p10
4 利用者支援に関する取り組み状況	p10
5 地域生活サポート事業	p11
6 ボランティア・実習等受け入れ状況	p11
7 職員外部研修	p11
8 委員会開催状況	p12
9 伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会 部会への参加状況	p13
10 小規模法人ネットワーク構築事業	p13
III 「障がいサポート コールラビ」の動向	p16
IV 農園事業の動向	p18

I 法人の動向

1 法人の概況

法人の沿革

平成 18 年 10 月 25 日	社会福祉法人さくらの家福祉農園、神奈川県より認可
平成 18 年 11 月	第 1 回理事会が開催され、大谷弘理事が初代理事長に就任
平成 18 年 12 月	施設建物建築着工
平成 19 年 3 月	建物完成
平成 19 年 4 月 1 日	指定就労継続支援B型事業所「さくらの家福祉農園」の運営開始 石井尚美理事が施設長に就任
平成 20 年 4 月 1 日	指定相談支援事業所「さくらの家」の運営開始
平成 20 年 11 月	大谷弘理事が再任され、2 期目の理事長に
平成 20 年 12 月	法人化 1 周年記念報告会開催
平成 21 年 4 月 1 日	村井雄一朗氏が施設長に就任
平成 22 年 4 月 1 日	指定生活介護事業所「さくらの家福祉農園」の運営開始
平成 22 年 11 月	大谷弘理事が再任され、3 期目の理事長に
平成 22 年 11 月	法人化 3 周年記念報告会開催
平成 24 年 4 月 1 日	指定特定相談支援事業所「障がいサポート コールラビ」の運営開始
平成 24 年 5 月	大谷弘理事長より法人借用中の土地を寄附 法人 5 周年記念式典、土地寄贈式開催
平成 24 年 11 月	第 4 期理事会が発足し、西水紘一理事が第 2 代理事長に就任
平成 25 年 4 月	法人の管轄が神奈川県から伊勢原市に移譲
平成 25 年 4 月 1 日	指定就労継続支援 B 型事業所の指定更新
平成 26 年 11 月	西水紘一理事が理事長(2 期目)として再任(第 5 期理事会スタート)
平成 28 年 4 月 1 日	指定生活介護事業所の指定更新
平成 28 年 11 月	第 6 期理事会西水紘一理事長(3 期目)
平成 28 年 11 月 23 日	法人設立 10 周年記念収穫感謝祭開催
平成 29 年 3 月	社会福祉法改正により、評議員選任解任委員会が組織され、初めての会合 を開催し、次期評議員 7 名を選任
平成 29 年 4 月 1 日	社会福祉法改正により、新規評議員会(7 名体制)の任期(4 年)が開始
平成 29 年 6 月 14 日	社会福祉法改正による新規定時評議員会が開催され、次期理事を選任
同日	第 7 期理事会が発足し、理事長として、西水紘一理事が再任(4 期目)
平成 31 年 4 月 1 日	指定就労継続支援 B 型事業所の指定更新
令和元年 6 月	第 8 期理事会が発足し、理事長として、西水紘一理事が再任(5 期目)
令和 3 年 6 月	第 9 期理事会が発足し、勝田俊一理事が第 3 代理事長に就任
令和 4 年 4 月 1 日	指定生活介護事業所の指定更新
令和 5 年 6 月	第 10 期理事会が発足し、勝田俊一理事が再任(2 期目)

2 土地及び建物

土地や建物に変更等はありません。

- (1) 土 地 ・ ・ ・ ①伊勢原市岡崎字天神下 7020 番 3 雑種地 84 m²
②伊勢原市岡崎字天神下 7021 番 1 雑種地 884 m²
- (2) 建 物 ・ ・ ・ 伊勢原市岡崎字天神下 6940 番地 2
社会福祉法人さくらの家福祉農園事務所 1 棟
木造合金メッキ鋼板ふき 2 階建 延床面積 207.03 平方メートル

(3) 建物平面図

2階平面図

生活介護事業所用 作業室 19.83 m ²	生活介護事業所用作業室 16.77 m ²		倉庫 5.59 m ²
就労継続支援B型事業所用 作業室 19.83 m ²			
	吹抜	階段	職員用 トイレ 3.21 m ²
			相談室 8.03 m ²

1階平面図

就労継続支援B型事業所用 作業室 26.85 m ²	加工室 7.16 m ²	就労継続支援 B型事業所用 作業室 8.95 m ²	更衣室 7.16 m ²	浴室 3.3 m ²	トイレ 4.4 m ²	
				脱衣所 3.85 m ²	洗面室 4.95 m ²	
事務室 13.63 m ²						
	玄関	階段	収納	更衣室 4.17 m ²	更衣室 4.17 m ²	通用口

3 法人組織

(1) 法人役員

役員については、6月に任期満了による改選があり、評議員会で全役員が再任されています。直後の理事会で理事長も再任されています。

	氏名	任期
理事長	勝田 俊一	2023年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
理事	西水 紘一	2023年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	打田 行男	2023年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	石井 正道	2023年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	遠藤 岳洋	2023年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	村井 雄一朗	2023年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
監事	中村 逸郎	2023年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	高橋 香織	2023年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会

(2) 評議員

評議員については、特段の変更等はありませんでした。

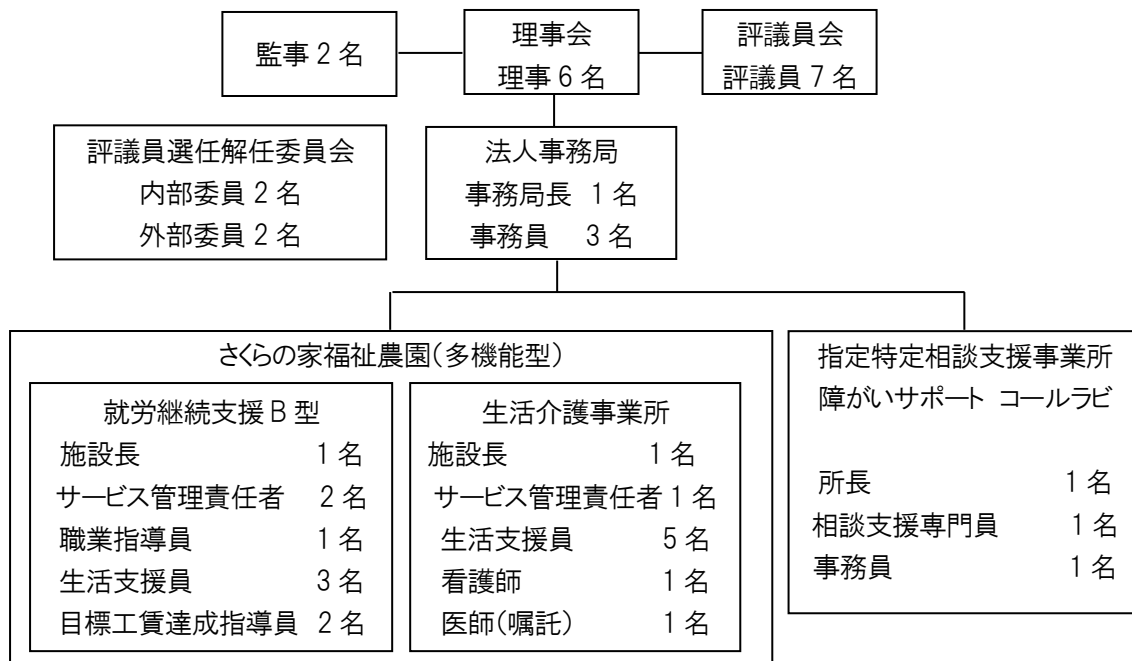
	氏名	任期
評議員	大杉 あや子	2021年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	衛藤 信恭	2021年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	中台 和子	2021年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	塚本 富男	2021年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	川上 道子	2021年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	長谷 智子	2021年6月定時評議員会～2025年6月定時評議員会
	山田 千尋	2023年2月7日～2025年6月定時評議員会

(3) 評議員選任・解任委員

委員については、特段の変更はありません。

	氏名	区分	任期
評議員選任 ・解任委員会	脇坂 真平	外部委員	2021年6月定時評議員会 ～2025年6月定時評議員会
	船渡川 忍	外部委員	2021年6月定時評議員会 ～2025年6月定時評議員会
	中村 逸郎	内部(監事)	2021年6月定時評議員会 ～2025年6月定時評議員会
	坂本 満	内部(職員)	2021年6月定時評議員会 ～2025年6月定時評議員会

(4) 組織図



(5) 理事会開催状況

理事会は、5月、10月、3月に定例会を開催しました。また、6月に臨時理事会を開催しています。

5月定例会は、前年度の事業報告及び決算が主な議題でした。

6月は役員任期満了に伴う役員改選があり、選出された理事の中から理事長を選任するための理事会でした。

10月定例会は、報告事項のみとなっています。また、法人表彰で職員の勤続15年が2名、10年が1名、5年が1名、表彰されました。

3月定例会は議題が2024年度事業計画と予算編成でした。

日程・内容等については、次のとおりです。

2023年度 理事会実施状況

月	日	名 称	審議事項	可否	出席者
5	24	5月定例理事会	審議事項 第一号議案 2022年度補正予算 第二号議案 2022年度事業報告 第三号議案 2022年度決算報告 第四号議案 社会福祉法人さくらの家福祉農園 苦情解決のための第三者委員設置要綱の改定 第五号議案 評議員選任・解任委員会委員の改選 第六号議案 評議員会の招集事項について 報告事項 第一号報告 理事長業務報告	可決 可決 可決 可決 可決 可決	5名 (欠席1名) 監事2名
6	14	臨時理事会	審議事項 第一号議案 理事長の互選	可決	6名 監事2名
10	25	10月定例理事会	報告事項 第一号報告 理事長業務報告 第二号報告 小規模法人ネットワーク構築事業業務委託契約について		6名 監事2名
3	6	3月定例理事会	審議事項 第一号議案 2024年度事業計画 第二号議案 2024年度予算 報告事項 第一号報告 職員の処遇改善手当の一時的増額	可決 可決	5名 (欠席1名) 監事1名 (欠席1名)

(6) 評議員会開催状況

評議員会は、6月の定時評議員会のみ行われました。2022年度決算の承認と、役員任期満了に伴う改選が行われています。

2023年度 評議員会実施状況

月	日	名 称	内 容	可否	出席者
6	14	定時評議員会	審議事項 第一号議案 2022年度決算の承認 第二号議案 次期役員を選任 報告事項 第一号報告 2022年度事業報告	可決 可決	5名 (欠席2名) 理事長・事務局長

(7) 評議員選任・解任委員会開催状況

評議員選任・解任委員会は開催されていません。

(8) 法人事務局会開催状況

法人体制強化の一環として法人事務局会を行いました。開催状況は次表のとおりです。状況に合わせて相談員を招へいするなどもしました。

2023年度 法人事務局会実施状況

月	日	主な内容	出席者
5	9	法人・事業所状況、5月定例理事会について	勝田理事長、村井
6	12	6月定時評議員会について(オンライン)	勝田理事長、村井
9	27	法人・事業所状況、10月定例理事会について	勝田理事長、村井
1	25	法人・事業所状況、3月定例理事会について	勝田理事長、村井、安川相談員

(9) 監事の活動状況及び会計指導

今年度も、「確実な経理処理」「透明性のある会計内容」実現のために、定期的に会計指導を受けています。また、法人ガバナンス強化の意味合いからも2名の監事が理事会に参加し、意見をいただいています。

2023年度 会計指導・監事(会計監事監査含)状況

月	日	内 容	備 考
5	11	会計監事監査	高橋監事
5	12	事業監事監査	中村監事
5	17	会計指導	ビズアップ人事コンサルティング株式会社 島津氏
7	20	会計監事監査	高橋監事
11	6	会計監事監査	高橋監事
11	16	会計指導	ビズアップ人事コンサルティング株式会社 島津氏
1	26	会計監事監査	高橋監事

(10) 施設長業務状況

神奈川県施設長会、湘南西地区施設長会および研修会に参加しています。また、昨年度より「伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会」の副会長に任命されたため、伊勢原市協議会とそのための企画運営会議にも参加しています。

神奈川県社会福祉協議会の社会就労センター委員と神奈川セルフセンターの理事として2年の任期の1年目でした。調査研究研修委員会の委員として農福連携セミナーの講師の選定等を行いました。また、横須賀刑務所の取り組みで進めている農福連携事業についての意見交換会への参加。農福連携事業先進地の取り組み紹介として見学会の受け入れも行っています(別項に記載)。

昨年度から試行的に始まった中井やまゆり園と共同で進めるプロジェクト(ロマンティック農園プロジェクト。後半から小規模法人ネットワーク構築事業)の会合等に出席しています。また、中井町山口農家さんとの現地での打ち合わせなども行っています。

さらに自然農法グループからの依頼で、こちらも農福連携の事例報告を東京で行っています。前日には見学会の受け入れも行っています(別項に記載)。

2023年度 施設長業務等状況

月	日	内 容
5	23	社会就労センター協議会総会・委員会、神奈川セルフセンター総会(横浜)
6	1	中井プロジェクト打ち合わせ
7	2	PWS ケアギバースネットワーク情報交換会(横浜)
7	13	ロマンティック農園プロジェクトキックオフミーティング
8	8	自然農法事例報告会(東京)
8	17	中井プロジェクト打ち合わせ
8	29	社会就労支援センター協議会委員会(zoom)
9	11	LITALICO ウェブ会議
9	11	農業ステーション訪問(小田原)
10	6	福祉避難所に関する打ち合わせ(伊勢原市役所)
10	11	神奈川県指導講習会(横浜)
11	13	農福連携意見交換会(横須賀刑務所)
11	20	小規模法人ネットワーク構築事業会合(Web)
11	28	パーソルダイバーズ打ち合わせ(岩崎氏)
12	27	小規模法人ネットワーク構築事業打ち合わせ
1	10	市町村協議会厚生労働省ヒアリング調査会(秦野市役所)
1	11	中井における自然農法に関する打ち合わせ(MOA 村田氏)
1	16	中井農園打ち合わせ(山口農家)
1	23	パパイヤ育苗に関する打ち合わせ(荒井農家)
1	30	ダイハットヨタ車輻に関する聞き取り
1	30	農福連携補助金に関する打ち合わせ(ビズアップ島津氏) 同 2/7、2/26、2/28
2	14	小規模法人ネットワーク構築事業会合
3	18	社会就労センター協議会総会・委員会、神奈川セルフセンター総会(横浜)
3	25	小規模法人ネットワーク構築事業会合
施設長会(7/7、9/29、12/15、2/16、3/15)ウェブ会議		
伊勢原市協議会(7/6、10/6、12/12(書面)、2/16(書面))、伊勢原市協議会企画運営会議(6/21、9/20、1/23)		

II 指定就労継続支援 B 型事業所・指定生活介護事業所「さくらの家福祉農園」の動向

1 事業所の行事

新型コロナウイルス感染症は5月から5類に移行しましたが、冬季にはインフルエンザも流行したこともあり、念のため旅行等は控えました。

今年も自治会長選挙を行って、就労 B・生活介護ともに一人ずつ会長が選出されました。毎月第一月曜日の午後にメンバー会議を行う際の司会や、そこでの提案事項を施設長と話し合う仕事を行いました。

2月3日には、伊勢原市障害者スポーツ大会に参加しました。これまでは9月開催で稲刈りの日と重なることが多かったため、生活介護利用者のみ参加していましたが、今回は就労 B 利用者も参加することができ、楽しく競技を行っていました。

2 利用者数の状況

①2023 年度の利用者登録数推移

就労 B の利用者は、年度途中で1名が生活介護に異動しました。生活介護では、年度途中で就労からの異動がありましたが、その後その方の退所により、プラスマイナスゼロでした。

事業種別	性別	2023.4.1 現在	2024.3.31 現在
就労継続支援B型事業所 登録利用者 (定員 10 名)	男性	7 名	7 名
	女性	4 名	3 名
	合計	11 名	10 名
生活介護事業所 登録利用者 (定員 10 名)	男性	9 名	9 名
	女性	3 名	3 名
	合計	12 名	12 名
合計		23 名	22 名

生活介護事業所利用者障害支援区分の 2020 年度～2023 年度の推移は次のとおりです。2023 年度末現在の平均区分は、年度内に利用者の異動はありましたが、最終的な人員の変更がなかったため、2021 年度から変わっていません。

生活介護事業所利用者 障害支援区分推移(2020 年度～2023 年度)

	区分	2020 年度末現在	2021 年度末現在	2022 年度末現在	2023 年度末現在
障害支援区分	3	2 名	2 名	2 名	2 名
	4	7 名	7 名	7 名	7 名
	5	2 名	3 名	3 名	3 名
	平均	4.0	4.08	4.08	4.08
合計		11 名	12 名	12 名	12 名

②2023 年度 各月の就労継続支援 B 型事業所利用者延人数と日平均利用者数

4 月から 9 月までは利用者数が 11 人でしたので、日平均利用者数が 9～10 人台で推移していますが、決して高くない数字となっています。10 月からは利用者数が 10 人に減少したことで分かるように 8 人台後半～9 人台前半となっています。主な要因は週の出勤日数が 3 日の方がいる影響です。9.4 人/日という数字自体は、ここ数年の減少傾向から回復しています (11.0 人/日 (2019 年度)、9.8 人/日 (2020 年度)、9.16 人/日 (2021 年度)、9.11 人/日 (2022 年度))。

ここ数年、総延利用者数が 2800 人日 (2019 年度)、2548 人日 (2020 年度)、2362 人日 (2021 年)、

2392 人日（2022 年）、と減少傾向でしたが、今年度は 2469 人日で、回復してきています。

定員に対する稼働率も 93.9%とよくなってきましたが、現在員（現在利用されている方の数）に対する出勤割合は、89.4%となっており、やはり週 3 日出勤の方の影響を受ける結果となっています。

2023 年度の就労継続支援 B 型利用者の出勤状況

各月の状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
開所日数(日)	21	23	22	22	23	22	23	22	21	21	21	22	263
総延利用者数(人日)	208	230	204	218	222	222	203	202	192	183	189	196	2469
日平均利用者数(人)	9.9	10.0	9.3	9.9	9.7	10.1	8.8	9.2	9.1	8.7	9.0	8.9	9.4
月稼働率(%) ^{※1}	99.0	100	92.7	99.1	96.5	101	88.3	91.8	91.4	87.1	90.0	89.0	93.9
出勤率(%) ^{※2}	90.0	90.9	84.3	90.1	87.7	91.7	88.3	91.8	91.4	87.1	90.0	89.1	89.4

※1 月稼働率は、利用定員に対する割合。

※2 出勤率は、日平均利用者数／現員数×100

③2023 年度 各月の生活介護事業所利用者延人数と日平均利用者数

生活介護では 10 月に就労 B から 1 人異動があり、13 名となりましたが、その方が結局 3 月に対処されましたので、最終人数は 12 名となっています。総延利用者数は 2784 人日で、昨年度の 2876 人には及びませんでした。2021 年度の 2785 人日とほぼ同数となりました。

7 月に稼働率が下がっているのは、病気で長期休まれた方がいる影響です。例年だと 8、9 月の稼働率が下がりますが、今年度はそこまでの下落はありませんでした。10 月から 2 月にかけて日平均利用者数、稼働率ともに増加しているのは、前述のとおり利用者数が 1 名増加しているためです。

出勤率は 85.3%で、ここ数年 91%台で推移していた数値よりも低下してしまいました（2021 年度；91.2%、2020 年度；91.5%、2022 年度 91.1%）。これは、昼夜逆転で通えなくなってしまう方がいることが一因と考えられます。

2023 年度の生活介護利用者の出勤状況

各月の状況	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年間
開所日数(日)	21	23	22	22	23	22	23	22	21	21	21	22	263
総延利用者数(人日)	226	246	221	210	223	224	258	249	243	229	227	228	2784
日平均利用者数(人)	10.8	10.7	10.0	9.6	9.7	10.2	11.2	11.3	11.6	10.9	10.8	10.4	10.6
月稼働率(%) ^{※1}	107.6	107.0	100.5	95.5	97.0	101.8	112.2	113.2	115.7	109.0	108.1	103.6	105.9
出勤率(%) ^{※2}	89.7	89.1	83.7	79.5	80.8	84.8	86.3	87.1	89.0	83.9	83.2	86.4	85.3

※1 月稼働率は、利用定員に対する割合。

※2 出勤率は、日平均利用者数／現員数×100

3 就労継続支援 B 型事業所利用者工賃支払状況

2023 年度中の就労継続支援 B 型事業所利用者に対する工賃支払状況は次の表のとおりです。例年どおり 5 月と 11 月にボーナスを支払っています。

平均工賃月額 は 21,261 円で、昨年度（19,190 円）よりも増加し、過去最高額を更新しています。2024 年度は、報酬改定によって平均工賃額の算出方法がこれまでと変わったため、数千円の差額が出るようです。本事業所においても旧計算法（支払総額／総支払対象者数）だと 19,009 円で、

昨年度を下回っていますが、新計算法（支払総額／一日当たりの平均利用者数／12 カ月）によって昨年度を上回り、平均工賃が2万円台に乗りました。

2023 年度 就労継続支援 B 型利用者の前年度の各月の工賃支払対象者数及び工賃支払総額

対象工賃月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
支払対象者(人)	11	11	11	11	11	11	10	10	10	10	10	10	126
支払総額(千円)	166	343	164	175	178	179	162	422	153	145	150	157	2,395
延べ勤務時間数	819	909	807	862	880	882	802	800	761	723	747	780	9,770
延べ勤務日数	208	230	204	218	222	222	203	202	192	183	189	196	2,469

今年度の平均工賃 21,262 円/月/人(旧計算法; 19,009 円/月/人)

4 利用者支援に関する取り組み状況

2023 年度に利用者支援に関する会合等について取り組んだ状況を次の表に示しています。

今年度は、昨年度同様、原則月 1 回「ケア会議」という支援員の会議を行い、職員の支援力アップを図りました。また、こちらも昨年度同様、サービス管理責任者の資格を持つ職員 3 名（現配置の村井、梅原および資格保持の坂本）およびコールラビの相談支援専門員である安川の 4 名で、原則月 1 回の開催で「サビ管会議」を行いました。

また、これまで利用者の区分調査などが本事業所で開催される場合は、サビ管有資格者が立ち会っていましたが、支援力の向上を図る目的で極力支援員が同席するようにしました。

2023 年度 利用者支援に関する会合等状況

月	日	内容	参加者
4	4	利用に当たった面談	ご本人、ご家族、施設長
6	22	担当者会議	ご本人、ご家族、GH 関係者、行政、施設長、相談員
7	11	担当者会議	ご本人、GH 関係者、相談員
7	18	面談	ご本人、保佐人、相談員
8	1	GH 転居手伝い	ご本人、後見人、さくらの家利用者・職員
8	25	面談①	ご家族、施設長
		面談②	ご家族、施設長
8	28	区分調査	ご本人、行政 2 名、GH 関係者、相談員
10	20	面談	ご本人、保佐人、相談員、GH 関係者
12	22	面談	ご本人、支援員、相談員
12	26	ケアカンファレンス	ご本人、ご家族、相談員
1	31	面談	ご本人、ご家族、支援員、相談員
2	20	面談	ご家族、支援員、相談員
2	29	面談	保佐人、相談員
ケア会議(4/19、7/10、8/9、9/21、11/22、1/17) サビ管会議(4/5、7/5、8/2、9/20、10/25、11/15、2/14) 個別支援計画策定会議(ケア会議・サビ管会議合同開催(6/27、12/13))			

5 地域生活サポート事業

地域生活サポート事業とは、障害者の地域生活を支え、地域での生活へ移行を推進するために実施するもので、県・市が補助を行う事業です。これまで同様、地域交流等支援事業と今年度から新たに地域防災拠点事業を実施しています。地域防災拠点事業は、伊勢原市の福祉避難所の協定も締結したうえで実施しています。

①地域交流等支援事業

利用者が地域で豊かに暮らすことをサポートするために、地域住民・家族・施設職員が一体となって基幹作業である農作業とともに体験する機会を作り、お互いを知り障害者の権利を考えながら、地域福祉の在り方を探る取り組みとしています。

これまで同様、稲作体験と夏野菜の種まき体験を行っています。

また、今年度も陶芸を行いました。引き続き法人の看板用の野菜の陶板づくりを行っています。

2023 年度 地域交流等支援事業 実績一覧

実施日	イベント名	内容	参加者(人)	備考
6/3(土)	アグリフェス	稲作体験Ⅰ(田植え)	30	
7/15(土)	アグリフェス	稲作体験Ⅱ(田の草取り)	12	
9/23(土・祝)	アグリフェス	稲作体験Ⅲ(稲刈り)	32	
11/23(木・祝)	アグリフェス	焼き芋会	42	
2/12(月・祝)	お楽しみ昼食会	作付検討会・昼食会	27	
3/20(水・祝)	アグリフェス	春の種まき講座	15	
3/25(月)	年度末昼食会	昼食会	38	
月 1 回	余暇行事	陶芸	全 101	全 12 回開催

②地域防災拠点事業

今年度から始めた事業です。伊勢原市と福祉避難所の協定も締結しています。

初年度なので、まずは外郭から整備を開始しています。防災倉庫や発電機など、大きな物品を揃えています。また非常食等も揃えています。最低限の確保にとどめています。

2023 年度 地域防災拠点事業 購入実績一覧

物品名	購入金額	内容
防災備蓄物置	198,000	タクボ製 中型物置 Mr.ストックマン
防災備蓄物置設置 基礎	2,494	コンクリートブロック
発電機	290,000	正弦波インバーター搭載発電機 EU26i
LED照明 電工ドラム 一式	49,000	WING ACE スーパールミネ X60(3 台), コードリール(2 台)
防災トイレ 一式	165,500	ワンタッチテント WT-1GR(3 帳), ワンタッチトイレ受けバック付き TO-U(3 帳), 災害用トイレ処理キット キキ・イッパツ 100 回分(5 セット)
ハンディストレッチャー 一式	26,000	ハンディストレッチャーⅡ
非常用保存食 一式	175,000	7 年保存 3 日セット(50 セット)
消費税	71,550	上記 3~7 の商品にかかる消費税一式(10% ¥57,550、8% ¥14,000)
送料	45,000	上記 3~7 の商品配送にかかる配送料一式
支出合計	1,022,544	

6 ボランティア・実習等受け入れ状況

2023 年度中の実習やボランティアの受け入れ状況は次のようになっています。

今年度は徐々に個人ボランティアの受け入れを行いました。高校生一名が夏休みと春休みを利用してボランティア体験を行われました。

今年度は利用見学や昨年度復活した大住中学校の職場体験は行われませんでした。

フェリシアこども短期大学からは、今年度も保育士養成のための実習を行い、2 名を受け入れました。

伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会の就労部会主催で行われている伊勢原市障害福祉事業所合同説明会が、今年は学校の夏休みである 7 月末に行われました。今年も 11 名が将来の進路の参考にと、ブースに来訪されました。

2023 年度中のボランティア・実習・見学等受け入れ状況

団体名等	回数(日)	参加者数(人)	備考
個人ボランティア	7	2	
支援学校生徒・家族等見学	7	複数	保護者見学会含
団体見学・説明会	2	複数	自然農法グループ研修会、県社協研修会
伊勢原市福祉事業所説明会	1	11	協議会就労支援部会(中央公民館)
フェリスアこども短期大学	20	2	
入職希望者見学・実習	3	3	3名入職

7 職員外部研修

2023 年度に参加した職員の外部研修の状況は次の表のとおりです。

コロナ以後、ウェブ研修が増えたため、参加しやすくなり様々な研修に参加することができています。

本事業所でも意思決定支援を根幹に据えて支援を行うため、意思決定支援ガイドライン研修に参加しています。また、未だ収まらない障害者虐待を防止すべく都度行われている虐待防止研修に複数名の職員が参加しました。

昨年度来参加していますが、今年度もプラダーウィリー症候群（PWS）の利用者の支援について学ぶため、2回の研修会・講習会に参加しました。

その他、必要に応じて研修会に参加しています。

2023 年度 職員外部研修状況

実施日	研修内容	参加者
10/17(火)	意思決定支援ガイドライン研修(横浜)	坂本
10/22(日)	PWS 研修会	村井・梅原・安川
11/21(火)	食品衛生責任者講習(伊勢原市文化会館)	川口
12/13(水)	BCP 策定研修会(WEB)	村井
12/22(金)	障害者虐待防止研修(伊勢原シティプラザ)	箕輪
1/18(木)	虐待防止研修会(Web)	坂本、清水、山田、小林
1/22(月)	ストレスマネジメント研修(神奈川県社会福祉会館)	坂本
1/28(日)	PWS 講習会	村井・梅原

8 委員会開催状況

虐待防止委員会および身体拘束適正化検討委員会は、8月に外部委員も交えて一体的に開催しました。身体拘束に当たる事例等はありませんが、今後に向けての対策等を話し合っています。

感染対策委員会は、3カ月に1回以上会合開催と、年に2回研修会と訓練を開催しています。委員会では、研修で行う内容と。研修では厚労省の作成した動画の視聴を行っています。訓練（シミュレーション）では、嘔吐物処理の方法について、研修動画を視聴した後に実際に疑似物の処理を行いました。処理に当たった2名以外の職員も周囲でその方法を観察しました。

BCP策定委員会は、策定研修会への参加をもって開催としました。次年度以降は経過措置が終了するため、委員会等、順次計画的に行っていく必要があります。

2023 年度 各委員会の会合等開催状況

委員会名	委員会開催日	研修会	訓練等
虐待防止委員会	8月30日(同時開催)	12月22日	
身体拘束適正化検討委員会		1月18日	
感染症対策委員会	6月28日、9月27日、12月27日	7月19日、1月31日	11月29日
BCP 策定委員会	12月13日(策定研修会に参加)		未実施

9 伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会 部会への参加状況

2023 年度の伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会各部会への参加状況を次の表に示しています。相談支援部会には安川が、就労支援部会には川口が、権利擁護部会には箕輪が参加しました。協議会本会については法人の施設長業務内に記載しています。

2023 年度 伊勢原市障がい者と暮らしを考える協議会各部会への参加状況

部会名	参加職員	開催日
就労支援部会	川口	7月13日、7月30日(見学会)、1月16日
権利擁護部会	箕輪	6月9日、7月14日、12月22日(人権研修会)、1月16日
相談支援部会	安川	4月14日、5月8日、6月6日、7月19日、9月13日、11月15日、12月13日、1月17日、2月29日、3月11日

10 小規模法人ネットワーク構築事業

この事業は、中井やまゆり園及び県西地域または湘南地域の施設・事業所利用者が、休耕農地における農作業をはじめとする日中活動を通じて地域貢献をするため、中井やまゆり園と小規模な社会福祉法人等が「法人間連携プラットフォーム」を形成して連携を図り、地域貢献協同事業及び福祉人材確保・定着事業を実施し、また利用者の社会参加に向けた取り組みを実施することを目的として立ち上げられています。

現状として、①多数の休耕農地、農地の活用・農業の担い手確保、②未整備の周辺道路・河川敷・古くなった寺社や民家などが、地域の課題として挙げられます。

また、施設・事業所など運営者側の課題として、①施設外における日中活動場所を模索している、②中井やまゆり園支援改革プロジェクト会議において「園外における日中活動をもっと充実させる必要がある」と指摘されていること、③本法人始め、小規模法人としては研修を実施して支援の質を上げることの困難さがあることなどが挙げられます。

そこで、次の事業内容が考えられました。

(1) 法人間連携プラットフォームの設置

- 県西地域・湘南地域の複数小規模法人等参画の「法人間プラットフォーム」の設置
- 地域課題・活動内容に関する討議する会議の開催
- 上記会議において、実施事業を策定

(2) 複数法人の連携による地域貢献のための協同事業の立ち上げ

- (1)で策定した事業の実施(試行的に行う地域貢献活動)
- 上記による利用者の日中活動の充実
- 上記による地域住民と利用者との交流

(3) 福祉・介護人材の確保・定着のための取組の推進

ア 職員の支援力向上のための合同研修の実施

○外部講師等による専門性の高い研修の実施

○法人間で代替対応を行い、受講機会の向上を図る

イ 地域の福祉職員同士の交流機会の創出

○会議・研修・日中活動を通じて複数法人の福祉職員の交流機会を創出

これらの実施により、○日中活動を充実、「居場所づくり」「仕組みづくり」により、利用者の社会参加が実現、○休耕農地の活用による当該地域の活性化、○法人間協力による研修受講機会の向上、○専門性の高い研修受講による職員の支援力強化、○法人間の職員交流による支援技術向上・離職防止、といった効果が得られると期待されました。

実際に活動を行ったところ、地域での農作業実施により、次第に近隣住民が声をかけてくれるようになり、なかにはこちらの活動が有利に展開できるように取り計らってくれる方なども現れました。具体的には、地域美化を兼ねて農地周辺の落葉を集めていたところ、通りすがりの農家さんが落葉をたくさん集められる場所（人がおらず、車も通らない安全な場所）を教えてくれたことや、「頑張ってるね」「いつも頑張っているね」などの声をかけてくれる方なども現れました。

また、「深耕（天地返し）して新香（たくあん）を作ろう」プロジェクトでは、多数の参加者があり、土づくりから種まき、収穫、さらには「たくあん」への加工作業を含めた、農業という「1次産業」から「6次産業化」へ向けた取り組みを学ぶことができ、参加者からは一様に「貴重な体験ができた。」という意見が出ました。

参加した障害者（利用者）の日中活動の充実、「居場所づくり」「仕組みづくり」によって利用者の社会参加を実現するという効果は、一様に得られました。特に中井やまゆり園の利用者に関しては、これまで何年も外での活動を行っていませんでしたが、強度行動障害があるにもかかわらず、落ち着いて作業をすることができるなど、社会で暮らしていくための今後の可能性が示唆されました。

福祉・介護人材の確保・定着のための取組の推進について、職員の支援力向上のための合同研修の実施を図り、外部講師等により、「意思決定支援」や「強度行動障害者に対する支援」などについて、専門性の高い研修の実施を検討しましたが、日程調整がうまくいかず実施に至りませんでした。

また、地域の福祉職員同士の交流機会の創出のため、上記研修に合わせて、法人間の福祉職員の交流機会の創出を図りましたが、同様に実施に至りませんでした。

令和5年度 小規模法人ネットワーク構築事業 活動実績 別紙4-1（総括表）

月	回数(回)	参加延べ人数		主な活動内容
		利用者(人)	職員等(人)	
11月	13	32	30	ラッカセイ収穫、サトイモ収穫、ミカン収穫、野菜植付、草取り
12月	12	52	40	ミカン収穫、タマネギ植付
1月	8	27	20	落葉集め、畑の深耕(落葉床づくり)
2月	9	30	25	落葉集め、畑の深耕(落葉床づくり)、ジャガイモ植付
3月	10	34	24	落葉集め、畑の深耕(落葉床づくり)、トウモロコシ播種、柑橘類剪定、タマネギ追肥
合計	52	175	139	

令和5年度 小規模法人ネットワーク構築事業 活動実績 別紙4-2 (各作業)

内容		日程	場所	参加法人	延べ人数
	詳細				
野菜収穫作業	落花生・里芋・さつ ま芋・大豆	11/1, 8, 14, 15, 20	中井町 山口農園	社会福祉法人さくらの家福祉 農園	43
	里芋・さつま芋	12/4	中井町 山口農園	中井やまゆり園/社会福祉法 人さくらの家福祉農園	26
みかん収穫作業	早生みかん	11/11, 12, 13	中井町 山口農園	中井やまゆり園/社会福祉法人 さくらの家福祉農園/ボラン ティア	21
	早生みかん、晩生み かん、柚子	12/3, 5, 7, 8 , 11, 19, 20, 26	中井町 山口農園	さくらの家福祉農園/ボラン ティア	58
	晩生みかん、不知火	1/5, 23	中井町 山口農園	さくらの家福祉農園	20
	レモン	2/16	中井町 山口農園	さくらの家福祉農園	6
だいこんプロジェク ト	収穫	12/14	中井町 山口農園 /中井や まゆり園	中井やまゆり園//社会福祉法 人 グリーン/株式会社フェス ティーナレンテ/株式会社 ネ クストラス/社会福祉法人お おいそ福祉会	
	たくあん漬け		中井やま ゆり園	中井やまゆり園	
野菜の植付	白菜・ブロッコ リー・キャベツ等	11/7	中井町 山口農園	さくらの家福祉農園	7
	タマネギ	12/4	中井町 山口農園	中井やまゆり園/さくらの家 福祉農園	26
畑(野菜)の管理・周辺林地整備・道路美化等		11/2, 6, 7, 9	中井町 山口農園	さくらの家福祉農園	14
		12/1, 4, 5, 6 , 8, 11, 27	中井町 山口農園	さくらの家福祉農園	52
		1/12, 15, 16 , 17, 19, 24, 26	中井町 山口農園	さくらの家福祉農園	40

Ⅲ 「障がいサポートコールラビ」の動向

表-1 は障害種別の相談支援利用件数および全体に占める割合および2023年度と2022年度の増減割合です。

2023年度の総件数は261件で、2022年度と比較して166.2%（知的175.5%、精神152.4%といずれも増加）と増加しています。相談者をさくらの家福祉農園利用者に絞りましたが、よりきめ細やかに相談に当たることができている傾向だと言えます。

表-1 障害種別相談支援利用件数及び全体に占める割合および増減

障害種別	2023		2022		前年比(%)
	件数(件)	割合(%)	件数(件)		
身体障害	0	0	0		-
重症心身障害	0	0	0		-
知的障害	165	63.2	94		175.5
精神障害	96	36.8	63		152.4
発達障害	0	0	0		-
高次脳機能障害	0	0	0		-
児童(知的)	0	0	0		-
その他	0	0	0		-
合計	261		157		166.2

表-2 は、相談支援台帳登録者数および割合および一人当相談件数です。

一人当たりの相談件数は9.3件/人で、2022年度までの4人台と比較すると倍以上になっています。前段でも述べましたが、一人にかけられる時間が増えたことにより、細やかに対応ができています。

表-2 相談支援台帳登録者数および割合および一人当相談件数

障害種別	2023			2022
	人数(人)	割合※(%)	一人当相談件数※※	人数(人)
身体障害児者	0	-	-	0
重症心身障害児者	0	-	-	0
知的障害児者	27	96.4	6.1	29
精神障害	1	3.6	96	4
発達障害	0	-	-	0
高次脳機能障害	0	-	-	0
その他	0	-	-	0
合計	28		9.3	33

※ 割合は登録者全体数に対する各障害種別の割合
 ※※一人当相談件数は、表-1の2023年件数を表-2の2023年人数で除した数値。

表-3 は、支援方法別件数およびその割合および前年比です。

昨年度までは、コロナウイルス感染症回避のため対面での相談が減少傾向でしたが、「訪問」や「来所相談」が増加する傾向でした。さくらの家利用者がほとんどであるため、施設内にいる状態で、対面で行われたことが主要因だと考えられます。

個別支援会議や関係機関との連携は多少の増減はありましたが、あまり変化はありませんでした。

表-3 支援方法別件数およびその割合および前年比

支援内容	2023		2022		前年比(%)
	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	
訪問	15	5.8	1	0.7	1500
来所相談	179	69.6	106	69.7	168.9
同行	2	0.8	4	2.6	50
電話相談	33	12.8	11	7.2	300
電子メール	0	-	1	0.7	-
個別支援会議	9	3.5	7	4.6	128.6
関係機関	19	7.4	22	14.5	86.4
その他	0	-	0	-	-
合計	257		152		169.1

相談内容別件数は表-4 になります。

表-3 でも 169.1%と伸びていましたが、本表でも前年比 397.4%でした。相談内容が多岐にわたり、1 回当たりの相談で約 2.4 件の内容があったこととなります (612 件/257 回)。「健康医療に関する支援」「不安解消・情緒安定に関する支援」「家族関係人間関係に関する支援」「家計・経済に関する支援」「生活技術に関する支援」は前年と比べると大幅な増加となりました。

「福祉サービスの利用に関する支援」は昨年度同様割合としては一番多い内容となっており、昨年と比べても倍増しています。ただ、割合としては昨年度よりも半減しているため、より相談者からの相談内容が多岐にわたったということが分かります。

表-4 相談内容別件数

相談内容	2023		2022		前年比(%)
	件数(件)	割合(%)	件数(件)	割合(%)	
福祉サービスの利用に関する支援	255	41.7	113	73.4	225.7
障害や病状理解に関する支援	7	1.1	2	1.3	350
健康医療に関する支援	92	15.0	3	2.0	3066.7
不安解消・情緒安定に関する支援	67	10.9	10	6.5	670
保育教育に関する支援	-	-	-	-	-
家族関係人間関係に関する支援	36	5.9	7	4.5	514.3
家計・経済に関する支援	61	10.0	4	2.6	1525
生活技術に関する支援	79	12.9	9	5.8	877.8
就労に関する支援	-	-	-	-	-
社会参加・余暇活動に関する支援	10	1.6	1	0.7	1000
権利擁護に関する支援	5	0.8	5	3.2	100
その他	-	-	-	-	-
合計	612		154		397.4

表-5 は、年度別市町別サービス利用計画等作成件数を示しています。

県外に援護地のあるさくらの家福祉農園利用者が増加したため、その他(宇都宮市)の利用者数が増加しました。さくらの家福祉農園利用者の方はほぼ安定して活動されていますので、モニタリング数も増えることはありませんでした。

表-5 年度別市町別サービス利用計画等作成件数

市町名	2023		2022		2021	
	モニタリング	計画	モニタリング	計画	モニタリング	モニタリング
伊勢原市	19	5	37	7	52	21
平塚市	9	9	14	7	0	7
その他(2023 年度は、横浜市、座間市、秦野市、宇都宮市)	4	3	1	2	2	1
合計	32	17	52	16	54	30

Ⅲ 農園事業の動向

(1) 農園売上

第1表は、2020年度から2023年度までの販売区分別売上金額(2022年度と2023年度の金額との比較:販売区分別表)を示しています。

「農園販売」は、さくらの家で直売したものです。「外部販売」は学校販売やバザー等での販売です。「受注(作業・生産)」は、花壇整備などの作業受注および豆のパッキング、業者からブルーベリーの摘み取り依頼を受けたもの等です。「わくわく広場出荷」はわくわく広場に卸して販売したもの、「卸販売」はわくわく広場以外の小売店等に卸したものです。「個人注文」は、個人からブルーベリーの摘み取りを受注したもの、農家からの野菜苗の受注生産が主な内容です。

2023年度の売上は、農園売上集計ベースで3,263,541円(経理ベースでは3,203,127円)となり、実に12年ぶりに300万円台突破となりました。平成23年度(2011年度)に3,199,577円を記録して以来となります。ここ数年増加傾向にありますが、要因としては、受注作業(豆のパッキング事業)が好調だったことと、特に加工品の売り上げが多かったことによります。

わくわく広場の売り上げは2022年度から春先の野菜苗しか出荷できなくなったことで、今年度は昨年度よりもさらに下がっています。逆に卸販売は、新たに2か所販売先が増えたため8倍の増加になりました。

個人注文は、ブルーベリー園の縮小とともに摘み取り依頼が減少していることと、農家さんからの野菜苗の受注が減少したことによる減収です。

後述しますが、加工班の堅調さが農園販売にそのまま影響している様子で、100万円台に乗ることができました。

第1表 2020年度から2023年度までの販売区分別売上金額(販売区分別表)

販売区分	2023年度 売上金額(円)	2022年度 売上金額(円)	前年度比 (%)	2021年度 売上金額(円)	2020年度 売上金額(円)
農園販売	1,085,996	775,564	140.0	655,194	995,813
外部販売	134,510	132,649	101.4	61,440	120,200
受注(作業・生産)	1,530,774	1,464,661	104.5	1,059,130	769,285
わくわく広場出荷	229,925	260,555	88.2	517,214	376,184
卸販売(わくわく広場以外)	196,516	24,396	805.5	40,070	67,170
個人注文	85,820	266,380	32.2	420,390	351,400
合計	3,263,541	2,924,205	111.6	2,753,438	2,680,745

第2表は、2021年度から2023年度までの作業区分別売上金額および各作業区分の2023年度売り上げの全体に占める割合、さらには前年度比を示しています。

加工品は、前項で触れたとおり、前年度比146.2%で、回復傾向にあった昨年度からさらに伸びが見られました。豆のパッキングは横ばいですが、受注量は適量なのでよい傾向にあると言えます。野菜苗は前述のように、農家さんからの受注予約が減少していることが主因で減少していますが、50万円台はキープできています。これらを三本柱としていますが、それぞれ27.6%、26.1%、15.4%となっていますので、比較的バランスの取れた割合といえるでしょう。また、野菜苗に花苗・ハーブ苗を加えると65万円ほどとなり、全体の20%となるので、「苗生産」として考えると、何かに偏重した作業になっておらずさらにバランスの取れた比率だと考えられます。

2023年度に関して特筆すべきは、中井町での農園が開始されたことで、野菜生産は昨年度の倍となり、ミカンを中心とした果樹類の生産販売が復活したため、それだけで11万円の収入があったことは大きな成果といえるでしょう。

第2表 作業区分別売上金額(2021～2023)および2023年度の全体に占める割合および前年度比(作業区分別表)

販売区分	2023年度売上金額 (円)	割合 (%)	2022年度売上金額 (円)	前年度比 (%)	2021年度売上金額 (円)
加工物品	901,712	27.6	616,952	146.2	404,490
豆類/パッキング	853,198	26.1	878,625	97.1	767,930
野菜苗	502,629	15.4	553,738	90.8	573,558
ブルーベリー	194,500	6.0	166,313	116.9	246,775
作業	188,000	5.8	197,461	95.2	100,000
花苗・ハーブ苗	150,630	4.6	209,303	72.0	347,179
野菜	137,235	4.2	68,860	199.3	74,061
果樹類	114,256	3.5	0	-	0
米	108,360	3.3	85,280	127.1	48,240
切花	71,870	2.2	126,259	56.9	174,447
その他	41,151	1.3	21,414	120.5	16,758
合計	3,263,541		2,924,205	111.6	2,753,438

(2)作業支援

1)農園作業

①花苗生産

花苗については、春・夏播きは58品目154品種、夏・秋播きは56品目131品種の生産を行いました。4月～6月上旬については例年通りに行うことができました。夏播きについては、暑かったため播種時期を9月にずらすなどの対策をしましたが、パンジーやピオラなどは年内に咲き切らず、次年度はさらなる対策が必要だと考えられます。秋播きの種類は播種時期をずらすと今度は早咲きしてしまうなどもあったため、夏播き同様対策が必要です。

利用者の中には、就労Bのなかで少し作業についていくことが難しくなった利用者に、作業の目標量を決めて取り組んだところ、これまでのように漠然と作業していたのが、積極的になるなど少しずつ意識が変化してきた方もいました。また、高次脳機能障害の方も参加されていますが、支援は難しい面もありますが、リハビリ的な活動として取り組むことができています。

②加工品生産

2023年度の加工生産品の品目別売上高を第3表に示しています。

今年度もHOYA様や伊勢原市障害福祉課、かながわセルフセンターなど、多くの受注生産でハーバリウムマグネットが出品でき、昨年度に引き続き、大きく売り上げが増加しました。

また、ジャム類やハーブティー類は、伊勢原駅北口にある「ハッピーパンライフ」様のご協力で、店舗販売させていただくことができ、こちらも大きく売り上げを伸ばしました。さらに、平塚駅西口付近にある「土屋農場」様にも商品を置かせていただくことができました。

外部販売の回数も回復傾向にあり、また卸販売も順調に行うことができたため、全体としては飛躍的に売り上げが増加しました。

納品の際は、利用者も一緒に行いましたが、店内の様子を拝見し店頭で並ぶ商品の売れ行きを実際に見たり、店長さんと話をしたりするなど、自分たちが納品したものがどうなっていくのかを体感することができました。その帰途で「売れた、売れた！」「すごいね！」「また作らなきゃ！」などの会話もはずみ、普段の作業へのモチベーションに繋げることができました。他の場所でも、お店の方とお話をしたり、お客様の感想を聞かせていただいたりと、生産から納品まで携わり、自分たちが作っているものに自信を持つ体験ができたようでした。

第3表 加工生産品の品目別売上高(2021年度～2023年度)

品名	内容・備考	2023年度 売上高(円)	2022年度 売上高(円)	2021年度 売上高(円)
ハーバリウムマグネット	受注分中心	421,076	321,125	136,600
ジャム類	みかん・みかんマーマレード・ブルーベリー・キウイ他	335,936	199,348	180,680
ハーブティー	カモミール他	77,050	28,600	26,000
柚子胡椒	柚子胡椒(赤)・柚子胡椒(黄)	44,700	29,900	39,600
料理用ハーブ	ロリエ・ローズマリー等	11,850	8,250	7,600
和茶	ごぼう、にんじん、くず、桑、すぎな、どくだみ	3,600	7,600	6,400
その他	ハーバリウム、乾燥唐辛子等	8,400	22,129	6,950
合計		901,612	616,952	403,830

③野菜苗生産

2020年度から2023年度までの種類ごとの1万円以上の野菜苗売上高を第4表に示しています。

売上高第1位から第6位までは昨年度と変わりませんでした。ただ今年は例年より農家さんからの受注が減少したことを受け、全体的に各品目についても収益が減少しています。そのなかで唯一カボチャ類の売上金額は増加していました。

2023年度特筆すべきは、新潟の農家さんから接木苗の注文があったことと、中井町で行っている小規模法人ネットワーク構築事業(以後、小規模ネット)で苗の買い取りがあったことです。前者は、3名の職員も卒業している自然農法大学の先輩に当たる方で、卒業生にやってほしいという依頼で行いました。接木苗の生産は、携わった職員も数十年ぶりであったため成功率は低かったのですが、それでも譲り受けたいということで販売させていただきました。

農家さんからの依頼がない限りは、キャベツやブロッコリー、ハクサイなどの冬作の苗はほとんど生産しないため、2023年度は売り上げも少ない状況となりました。タマネギも小規模ネットで植え付けた以外は、苗としての販売はほぼありませんでした。

播種から鉢上げまでの苗づくりは、利用者が携わる作業として確立しています。鉢上げの工程も、ポットに土を入れ、小さな苗を掘り取り、移し替え、土を入れて成型する、という作業を単独の利用者が行ってきました。しかし、より多くの利用者に携わってほしいという思いで、現在鉢上げの工程の中に複数の利用者が関わることをできるように改良する取り組みを進めています。

第4表 2020年度から2023年度の種類ごとの野菜苗売上高(1万円以上)

品目名	売上高(円)				備考
	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	
トマト類	179,019	227,630	211,515	210,449	トマト・ミニトマト・中玉トマト合計(やまゆり生協様分含)
ナス類	58,698	69,750	51,710	39,750	ナス・長ナス合計(やまゆり生協様分含)
ピーマン	42,180	47,690	42,999	30,370	2品種(やまゆり生協様分含)
キュウリ	32,736	37,920	27,399	78,745	複数品種
トウガラシ類	26,370	25,933	16,966	12,267	鷹の爪、甘長、ししとう
カボチャ	19,532	17,762	17,948	15,262	複数品種
レタス類	15,620	12,250	115,255	91,934	グリーンレタス・サニーレタス類合計
パプリカ	13,474	16,800	17,029	18,228	2品種
接木苗	10,580	-	-	-	2023年度のみ。トマト・ナス等複数種
小規模N	70,000	-	-	-	小規模法人ネットワーク構築事業での苗の買い取り
その他	34,420	75,703	72,737	148,453	売上高1万円未満合計。キャベツ・タマネギ・ブロッコリーは2023年度はランク外
合計	502,629	531,438	573,558	645,458	

④野菜生産

第5表に2020年度から2023年度の種類ごとの野菜を、売上高10,000円以上のものについて示しています。昨年度までの表は「1,000円以上売り上げのあった物」で示しましたが、2023年度は売り上げが倍増したこともあり、10,000円以上というくりにすることができています。

2022年度にハウス内で作付けたトマトやキュウリの成果が良かったため、2023年度もハウス内での作付けを充実させるようにしました。夏場にはキュウリやピーマンを栽培したことにより、例年売り上げの高かったミニトマト類よりも多くの収量を上げることができました。

また、中井の農園で初めて落花生を栽培しましたが、思っていたよりも収量があり、秋のバザー等で煎りピーナッツとして販売することができました。

表中には示していませんが、ハウスで栽培したキャベツやブロッコリー、コマツナといった葉物や、サツマイモやジャガイモといったイモ類、苗として売ることができなかったタマネギを春先に野菜として販売した葉タマネギ、中井農園で採れたダイコンやエダマメ、サトイモなどもこれまでよりも生産・販売することができました。

植え付けや収穫に関しては利用者が携わっていますが、毎年最初に大きさなどの確認が必要ですが、その後は一人でも行うことができるようになっています。特に自分が定植したものについては、生育状況も気になるため、様子を見るなどする利用者も出てきています。

第5表 2020年度から2023年度の種類ごとの野菜(売上高1,000円以上)

品目名	売上高(円)				備考
	2023年度	2022年度	2021年度	2020年度	
キュウリ	35,176	2,420	5,768	6,095	
オクラ	19,557	5,654	1,650	2,200	
ピーマン	16,666	5,072	-	-	2021年度まではその他
煎りピーナッツ	12,700	-	-	-	中井町での落花生生産物
トマト類	12,562	12,318	35,245	23,175	ミニ・中玉・大玉合計
ナス	10,552	17,216	6,123	11,289	
その他	30,022	26,180	25,275	69,968	売上高10,000円未満の野菜の合計
合計	137,235	68,860	74,061	112,727	

⑤田んぼ生産

第6表に2017年度から2023年度のうるち米ともち米の収量および2021年度～2023年度の売上高を示しています。総収量は2022年度よりも落ちましたが、販売収益は全体的に上がりました。米の選別に手間暇をかけ過ぎていたのを省力化し、極力販売に回せるように努力した結果だと考えられます。

馬渡田んぼについては、今年度も職員が田起こし、代かき、除草を行っています。管理に関しても4月から6月までは例年と同じように除草等行うことができたが、7月以降は猛暑の影響や田んぼ以外の作業に追われていたこともあり、収穫時期の9月には稗が多く発生しました。そのため稲刈りの際は、バインダーが故障したことも重なり、刈払機で刈り取った稲の中から雑草を除去しながら束ねるという作業になりました。

利用者には刈り取った稲をひもで縛り、運搬して稲架掛けをしてもらい、時間がかかりながらも一所懸命に作業をした。

バッティングセンター裏田んぼは、アグリフェス用田んぼとして、ここ数年継続してもち米を生産しています。地域サポート事業で行っている「アグリフェス」で田植え、草取り、稲刈りしていますが、今年も利用者が参加者の手伝いをする形で協力しておこなうことができました。管理も6月から8月の間で定期的に除草が出来ていたため、収量も前年度と大きくは変わりませんでした。

第6表 2017年度から2023年度のうるち米ともち米の収量および2021年度～2023年度の売上高

種類	収量									
	2023		2022		2021		2020 (kg)	2019 (kg)	2018 (kg)	2017 (kg)
	収量(kg)		収量(kg)		収量(kg)					
	精白米 (円)	玄米 (円)	精白米 (円)	玄米 (円)	精白米 (円)	玄米 (円)				
うるち米	262 kg		340 kg		320 kg		115	115	180	200
	100,390 円	4,470 円	83,580 円	1,200 円	42,840 円	2,400 円				
もち米	20 kg		25 kg		5 kg		15	3.8	20	40
	3,500		500 円※1		3,000 円					

※1 行事で使用したため、ほとんどは非売品であった。

⑥豆パッキング事業

今年度も(株)がいあプロジェクト様からの依頼で、豆のパッキング事業を行いました。豆の種類はこれまでと同様で、通常の豆類とコーヒー豆(生豆)でした。

今年度は袋総数が23,702パックでした。昨年度とほぼ同数で売り上げもほぼ同額でしたが、一度パッキングミスをしてしまい、やむを得ず減額することがありました。11月頃までの受注数が昨年度を下回っていたため、今後は危ぶまれましたが、11月以降の新豆に変わってからはかなりの量を受注でき、回復しました。

利用者は、3年目となり作業工程も一定になってきたため、迷うことなくスムーズに作業を進められるようになりました。作業中も疲れを感じることはあっても途中でやめることも無くなりましたし、作業外の部分でも、受け答えや自分の意見が言えるようになるなど、しっかりとした姿が見られるようになりました。

第7表 2021年度～2023年度 袋種類別豆パッキング個数と金額

袋種類		2023年度	2022年度	2021年度
1kg パック	個数(袋)	10,704	9,971	8,058
	金額(円)	481,680	448,695	362,610
200g・150g パック	個数(袋)	12,998	14,331	13,581
	金額(円)	389,940	429,930	407,430
作業ミス補償	金額(円)	-18,422	-	-
合計(円)		853,198	878,625	770,040

2)所外作業

①花壇整備・草刈・個人宅整備等

花壇整備は伊勢原市役所に3回、伊勢原中央図書館に4回、愛の森学園様に4回行きました。

市役所は、10月の植え替えを最後にプランター数を削減するという申し入れがあり、それ以降の植え替え作業は無くなってしまいました。利用者には、市役所や図書館は「通る人に見てもらえる花壇を作る」という目的をもって作業に取り組んでいただきました。以前花壇整備作業を行ってからはしばらくプランクのある利用者もいましたが、目的意識をもつことで、集中して作業に取り組むことができました。人の往来がある環境でも緊張することなく、普段と変わらず作業ができ、様子を見て声をかけて下さる方への挨拶もできていました。

愛の森学園様では、参加した利用者も以前から何度も行っているため、慣れた作業として行うことができました。先方のご利用者様の動きに合わせて作業を行いました。こちらの利用者もうまく対応しながら作業を進めることができていました。

外部の草刈り作業は、神奈川県からの依頼で2回ほど海老名の県有地で行いました。さくらの家では慣れた作業なので、勝手は違いましたが、2回とも午前中だけの作業で手早く行うことができました。

個人宅の庭の整備もピーターの方のお宅に一度伺わせていただきました。利用者も作業内容を覚えており、丁寧かつスピーディーに行うことができていました。

②ブルーベリー収穫

2023年度は昨年度と異なり、収穫開始がずれることもなく、また最終も時期の最後まで行うことができたため、収量・収益ともに昨年度よりかなり伸び、2021年度並みとなりました。収量はかなり伸びたのですが、そのうちの半量がブルーベリージャム用に供されているので、利益としてはかなり落ちてしまっている状況です。2021年度の収量147kg、利益286,000円なので1,946円/kgなのに対して、2023年度は1,729円/kgになってしまうことから分かります。農園事業の冒頭通りにも述べたように、個人注文のお客様が減ってしまったことが原因と言えます。

利用者は、いつも作業に参加しているメンバーに加えて、ブルーベリージャムを生産している加工班も参加して行いました。ジャム用のブルーベリーは、昼休みの後の暑い時間にも行っていたので大変でしたが、美味しいジャムを作るために頑張って収穫しました。

第8表 2021年度～2023年度のブルーベリー収穫の回数と収量

	2023年度				2022年度				2021年度			
	収量(kg)	回数	平均(kg)	粗利益(円)	収量(kg)	回数	平均(kg)	粗利益(円)	収量(kg)	回数	平均(kg)	粗利益(円)
合計	172.1	17	10.12	297,510	77.1	11	7.01	167,379	147.0	18	8.17	286,065

③中井農園

中井農園は、神奈川県足柄上郡中井町井ノ口周辺の山口農家から依頼された主に4か所の畑です。呼称はそれぞれ「寺畑(メインの畑)」「みかん園」「メルヘン畑(中井やまゆり園との共同作業畑)」「ダイコン(深耕)畑」となっています。利用者は主に寺畑とみかん園に携わりました。メルヘン畑とダイコン畑は中井やまゆり園との共同作業を行い、特にダイコン畑は8月の暑い最中にいわゆる「天地返し(深耕)」という技術を土づくりの一環として行うところから始めました。メルヘン畑は、中井やまゆり園利用者の収穫等の体験圃場として活用しましたが、15cm掘ると、その下はガラガラの砂利層で硬くて耕運機の刃がたたないため、冬場に深耕して落葉を20cm程の厚さで入れ込む作業を行いました。

みかん園でも中井やまゆり園やそのボランティアの方たちと体験を行いました。さくらの家の利用者さんは普段の作業では主に草取りをやっていただきましたが、数年前まで小田原でみかん園の管理をしていた頃の経験を覚えており、スムーズに取り組むことができました。収穫の際もそれぞれの木や採った実の形の違いによって、味の違いを確かめるなどしながら楽しんで収穫することができました。

寺畑での作業は、前期は基本的に作物の草取り、草刈りが中心になりました。夏場は特に草の生育が旺盛だったため、職員が作物に目印を付けることで、草を見分けて取ることができました。

後半は職員・利用者ともに入れ替わりましたが、さくらの家の中では作業することが少し難しい方に参加していただきました。ADL 機能維持や社会参加をしていくためにルールを守るなど、基本的なことについての支援を入れながら農作業を行いました。草取り、種まきなど意欲的に取り組むことができていました。

第9表 2023年度の中井農場出向回数と基本週日数および作業内容

月	回数	週回数	作業内容
4月	6	2	畑準備、ミカン園草刈
5月	4	2	ラッカセイ播種、サトイモ植付、除草
6月	5	2	サツマイモ植付、タマネギ収穫、除草
7月	7	2	ダイズ播種、灌水、除草
8月	5	2	除草、ミカン園草刈
9月	5	2	除草、ミカン園草刈
10月	9	3	エダマメ・ラッカセイ収穫、果菜類撤収、除草、草刈
11月	13	3	ラッカセイ・サトイモ収穫、ミカン収穫、野菜植付、除草
12月	12	3	ミカン収穫、タマネギ植付
1月	8	3	落葉集め、畑の深耕(落葉床づくり)
2月	9	3	落葉集め、畑の深耕(落葉床づくり)、ジャガイモ植付
3月	10	3	落葉集め、畑の深耕(落葉床づくり)、トウモロコシ播種、柑橘類剪定、タマネギ追肥
合計	93		

3)販売活動

利用者が関わった主な販売活動は次表のようになっています。

(第10-1表)今年度も学校販売は、コロナで中止となったままでした。(株)がいあプロジェクト様の「ひなたマルシェ」は2023年度も継続させていただくことができました。一回の売り上げが約1,500円ほど減少しました。また、神奈川セルフセンターの農福マルシェの取り組みの一環で行われたSunsunマルシェに参加しました。多くの来場者の中、販売させていただきましたが、特に久々に行った「みかんの詰め放題」は大人気で、途中で「おかわり」を中井まで収穫に行くほどでした。伊勢原市のふれあい福祉祭りでもみかんの詰め放題を行い、こちらも大盛況でした。ジャムなども好評で、そのほかの商品もまんべんなく売れたため、過去最高金額を記録しました。

それぞれの販売に利用者にさんかしてもらいましたが、自分たちが普段作ったり収穫したものを目の前で売っていくため、自信に繋がりが今後のモチベーションを高めることもできました。

第10-1表 2023年度 販売活動状況

販売場所	販売日	実績	参加利用者数	売上高	平均売上(1回当)
ひなたマルシェ	毎月第3土曜日	12回	12名	63,530円 (2022年度 81,940円)	5,294円 (2022年度 6,828円)
※MOA小田原会館、湘南支援学校、伊勢原支援学校、平塚支援学校での販売はすべて中止					
出展名(販売場所)	月	日	売上高	備考	
メーデー販売	5	21	5,970円	平塚総合公園	
Sunsunマルシェ	11	12	18,600円	湘南海岸公園(平塚)	
伊勢原市ふれあい福祉祭り	12	9	46,410円	すこやか園	

(第10-2表)卸出荷では、今年度も継続して「やまゆり生協」様にトマト、ナス、ピーマンの苗を販売していただきました。豆のパッキングでもお世話になっている(株)がいあ様の店舗兼レストランである本厚木駅間近の「晴れ屋」様からは今年度もブルーベリーの摘み取り依頼があり、販売していただいたほか、野菜も販売していただくことができました。

2023年度も販売会は復活していませんが、その店舗であるグリーンマーケット小田原店様に、果菜類や葉菜類を販売していただきました。また、表に記載していませんがその系列の東京の店舗にも野菜を出荷させていただきました。

昨年度までは取引等がなく、2023年度から新しく出荷させていただくことができた店舗が秦野の「絵本と雑貨 OKANOUE」様、平塚駅西口の「土屋農場」様、伊勢原駅北口の「はっぴーパンらいふ」様です。特にはっぴーパンらいふ様は同業者ですが、パンの横でジャムを販売させていただいたことがきっかけとなり、今ではハーブティーなども置かせていただくことができ、11万円もの売り上げがありました。土屋農場様も今後出荷できる野菜などを増やすことができれば、さらに売り上げが上がると思えます。

第 10-2 表 2023 年度卸出荷状況

卸先	金額			備考
	2023 年度	2022 年度	2021 年度	
やまゆり生協	59,250 円	59,490 円	62,280 円	夏野菜苗(トマト・ナス・ピーマン)の出荷
晴れ屋	59,190 円	48,750 円	64,600 円	(株)がいあ様 プルヘリ- 50,000 円、野菜 9,190 円
グリーンマーケット小田原店	13,926 円	10,896 円	-	2021 年度以前は集計なし
絵本と雑貨 OKANOUE	26,200 円	-	-	2023 年度集計開始
土屋農場	14,940 円	-	-	平塚駅西口前
はっぴーパンらいふ	112,800 円	-	-	伊勢原駅北口前